

こもれびの森 通信 4 月号

2018

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



リニューアルオープンです!!



12月からの休館中、館内の全面リニューアル工事をしました。「こもれびの森」で見かける花や植物、野鳥、キノコ、小動物をフルに展示しました。

また、「森の役割」や「仕組み」を分かりやすく説明したり、「生物多様性」に関する展示パネルも用意しました。是非、ご来館の上見ていただきたいと思います。

平成30年度こもれびの森「ウッドランドクラブ」スケジュール

4月15日(日) 早春の観察会と巣箱の挑戦	5月13日(日) 新緑の一松山を歩きましょう	5月27日(日) 山野草観察会とピザ作り	6月10日(日) カブト虫の観察会
7月22日(日) 川遊びと観察会	8月5日(日) 川遊びと夏休みの工作を楽しもう	9月30日(日) 初秋の自然観察とお茶会	10月21日(日) 秋を満喫 きのこ観察ときのご鍋
11月4日(日) 紅葉の一松山を歩きましょう	11月18日(日) クズの蔓(ツル)でかご編みに挑戦	・参加ご希望の方は電話でお申し込み下さい。 ・募集人数:各回30名程度 ・参加費:小学生以上600円	

こもれびの森のかわいいことりたち

こもれびの森サポーターで専属ことりカメラマン(?)の太友さんのコーナーです

“春の小鳥たち”

- ①カワガラスが巣をつくり始めました。ミスゴケをくわえています。残念ですが崖がくずれ壊れました。
- ②冬鳥のアトリが旅立ち前に水浴びです。
- ③ヤマガラが貯えておいたエゴノキの実を食べています。
- ④珍しいお客です。魚を捕食するタカの仲間ミサゴです。(太友)

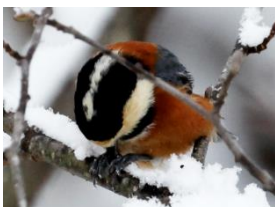
①カワガラス



②アトリ



④ミサゴ



③ヤマガラ

ミツケ! こもれびの森

こもれびの森でみつけたよ

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

ばっけの花と味

早春の観察会で、ばっけにはオス(雄花)、メス(雌花)があると言うと参加者は、一様に「ええー?」の声。目の前でオス、メスの花を見てもらっても最初は「分かんない」。形や色具合等々を見比べながら説明すると皆さんが「分かったあー」の返事。今年も何回となく説明を繰り返した。「全体がポテッとして花が黄色っぽいのがオス、きゃしゃで花が白っぽくて花が咲くとうなだれるのがメス」「美味しいのはオス」をここ数年繰り返してきた。多くがオス、メスの群れで生えているので、前年にオスの群れを確認していれば、花が咲く前のつぼみでも間違いなく採れて美味いばっけみそを食べられるはずだ。(は)

<オス>



<メス>



<混生(上オス・下メス)>



まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

～スプリングエフェメラル～ カタクリ(ユリ科)

春になると、園内には「カタクリ」や「ムラサキケマン」・「キクザキイチゲ」・「ニリンソウ」などの野草が開花し、にぎわいを見せます。これらの野草のことを「スプリング・エフェメラル」といいます。「エフェメラル」には、「はかない」とか「短命」の意味があります。直訳すると「春のはかない命」ですが、これでは色気がないので、普通は「春の妖精」と呼ばれています。これらの野草には共通するライフスタイルがあります。それは、雪だけの時期に地上に姿をあらわし、わずかな間だけ花を咲かせ、初夏には枯れてしまうということです。これ以後は地上には何もありません。

さてこれらの野草は、落葉広葉樹林の林床などに多く見られますが、樹木が葉を落としている冬から春にかけ、光が十分差し込むことを計算して葉を伸ばすと考えられます。この短い間に、栄養を根茎や球根にしっかりとため込みます。やがて、頭上の樹木に若葉が繁り始めると、日が当たらないため消えていくこととなります。「はかない」とか「短命」で形容されるものの、したたかな戦略を持っている野草たちではないでしょうか。(千葉)



<園内のカタクリ>

お願い

春の訪れとともに、「森林科学館」が開館しました。さて、当館では毎年、カブト虫についての話をしたり、子供たちが幼虫を持ち帰り育てるといったイベントをおこなっています。そのカブト虫の幼虫が不足している状態です。つきましては、カブト虫の幼虫を提供できる方を探しております。見つけた時は、是非、電話にて連絡いただければ幸いです。なお時期は、5月下旬までお願いしたいと思います。ご協力をお願いいたします。(連絡先 0228-56-2330)

<宮城県こもれびの森「森林科学館」>